

2007. 12. 9

八ツ場ダム住民訴訟 3 周年報告集会

「官僚技官 公共事業に依存する官僚たち」

明治大学政治経済学部・西川伸一

griffin@fa2.so-net.ne.jp

<http://www.kisc.meiji.ac.jp/~kokkaron/>

【内容】

はじめに

- 1 「技官」とよばれる官僚たち
- 2 官僚の行動動機
- 3 技官差別
- 4 族技官

【メモ】

- 0-1 拙著（2002）『官僚技官』五月書房、172-173 頁→名誉毀損で 100 万円の慰謝料→拙著（2005）『日本司法の逆説』五月書房の刊行

- 1-1 国 I の場合：「行政」「法律」「経済」→事務官、それ以外は「技官」
- 1-2 2006 年度国家 I 種試験採用内定者 584 名（事務官 285：技官 299）
- 1-3 同農水省採用状況 事務官 13：技官 60（最大は「農学 I」の 16）
- 1-4 同国土交通省採用状況 事務官 30：技官 71（最大は「理工 I」の 60）
- 1-5 公共事業→技官 ⇒ 技官→公共事業

- 2-1 「役人は、予算を獲得すること、権限を広げること、それに天下りのポストを増やすこと、この三つを考えて仕事をしている」『朝日新聞』1993 年 8 月 7 日（夕刊）
- 2-2 全額消費の原則
- 2-3 漸増主義（incrementalism）←→ゼロベース
- 2-4 早期勸奨退職慣行
- 2-5 「川屋」「道屋」

2-6 「川屋」岩井国臣（いわい・くにのみ）の経歴

1962年3月 京都大学大学院工学研究科土木工学専攻修士課程修了
 同年4月 建設省入省→中部地方建設局→河川局治水課長補佐→関東地方建設局京浜工事事務所長→河川局治水課建設専門官
 1982年6月 大臣官房政策企画官
 1983年6月 大臣官房技術調査室長
 1986年4月 九州地方建設局河川部長
 1988年4月 本省河川局河川計画課長
 1989年6月 中国地方建設局長
 1992年6月 建設省河川局長
 1993年6月 建設省退職。河川環境管理財団理事長
 1995年7月 参院議員初当選（自民党比例代表選出）
 1997年10月 参院建設委員会理事
 1998年1月 参院国土・環境委員会理事
 2001年1月 国土交通大臣政務官
 2001年7月 参院議員再選（自民党比例代表選出）
 2007年7月 参院議員を引退。

2-7 キャリア技官OBの参院議員ポスト

参院選	1995	1998	2001	2004	2007
建設省	井上 孝 (道)	脇 雅史 (川)	→	脇 雅史	→
	岩井国臣 (川)	→	岩井国臣	→	佐藤信秋 (道)
農水省	岡部三郎	佐藤昭郎	→	佐藤昭郎	→
	須藤良太郎	→	段本幸男	→	落選

2-8 事務官→技官「予算折衝でも、技官の連中は“あんたら大蔵官僚にこの専門分野のことがわかるのか。黙って予算をつければいいんだ”と露骨な顔をするよ」

2-9 技官→事務官「法文系の人たちになんの専門知識があるのでしょうか。彼らにはこれといったものがなく、それで、ともかく仕事を二の次にして出世しなければと走り回っているにすぎません」

2-10 長良川河口堰の建設「理由」

「実はあの堰の設置地点というのは、地形的に堰を作るのに絶好の場所だったんです。地形的に、資源のようなものと言ってもいいですね」西村、2002、111頁。

2-11 防衛施設庁 2007年9月1日に防衛省に統合

2-12 防衛施設庁建設部建設企画課長

松田隆繁（キャリア技官）→2005年8月 田中聡（キャリア事務官）

3-1 2002年度国I採用予定数と各幹部ポストの事務官技官比率

	採用予定数	審議官級	局長級	次官
事務官	270名(45%)	18名(81%)	87%	97%
技官	335名(55%)	44名(19%)	13%	3%

3-2 農水省構造改善局（現・農村振興局）に巣くう農業土木技官

3-3 「建設5倍、運輸10倍、農水100倍」

3-4 2005年度国I採用者と2007年度事務次官就任者数の事務官技官別

	採用者	事務次官
事務官	289名(44.7%)	11名
技官	357名(55.3%)	1名(文部科学省)

防衛省をのぞく。

『週刊ダイヤモンド』2007年6月23日号、49頁。

3-5 結城章夫 東大工学部卒；1971年科学技術庁入庁→2005年1月より文部科学事務次官→2007年7月 辞職；後任は錢谷眞美（ぜにや・まさみ）；東北大教育学部卒

3-6 「当時の役所では、技術系はかなり軽視されていました。技術系は7、8年から10年は出世が遅れる。だから、同じ課長でも技術の課長はおじさんで、事務官課長は若手です。」後藤田、1998、43頁。

4-1 「大蔵省が予算の査定をするといっても、公共事業については、要求官庁から上がってきたものを追認するだけ。明らかに無駄があっても、とてもじゃないが手は出せない」『週刊東洋経済』1996年12月14日号、

16 頁。

- 4-2 「五族協和」＝道路、治山・治水、農業基盤、港湾、下水道
- 4-3 国土交通省関東整備局・同荒川下流河川事務所広告「ダムなどの水資源開発施設の整備が実際の水需要に追い付いていないのが実情だ。……八ツ場ダムや湯西川ダムなどの水資源開発施設の建設は、水の安定供給には必要不可欠なのである。」『東京新聞』2007年10月30日。
- 4-4 池原工業（株） 〒377-0883 群馬県吾妻郡東吾妻町大字原町 160
- ①2003～2005年度で2名の国交省職員が天下り
 - ②群馬県発注の八ツ場ダム関連事業（2001～2006年度）を37件で合計16億2696万4500円を落札。
- 4-5 池原工業（株）のHPより
- これからの社会に求められているものは
人間の限りない欲求をすべて追及するのではなく
自然や地球環境と調和しながら
ゆとりある生活を実現することではないでしょうか。
- 人が自然を生かし
人が自然に生かされる技術を
池原工業はいつの時代も追求しています。
- (<http://www.ikehara.co.jp/index.html> 2007年12月5日閲覧)
- 4-6 Hirschman, Albert Otto 1915-
- 「退出 (exit)」と「抗議 (voice)」

【参考文献】

- +1 拙稿「日本の裁判所をコントロールする最高裁事務総局の裏（ロジ）支配」『SAPIO』2007年6月27日号
- +2 西村健（2002）『霞が関残酷物語』中公新書ラクレ
- +3 新藤宗幸（2002）『技術官僚』岩波書店
- +4 後藤田正晴（1998）『情と理（上）』講談社
- +5 横田一「福田首相『地元ダムでの国交省天下りシステム』に怒！」『フライデー』2007年12月7日号。
- +6 ハーシュマン（2005）『離脱・発言・忠誠—企業・組織・国家における衰退

への反応』(矢野修一訳) ミネルヴァ書房